

# LIBRARIES

## 展覧会「LIBRARIES | 鎖でつながれた本と本棚と太陽」

会期：2022年10月3日（月）～2023年3月31日（金）

会場：東京都港区海岸 五色橋ビル

企画：建築家・松井亮



運河に面した建物の最上階。ワンフロア350坪の空間にアート作品のような個性的な本棚が点在する。

2022年10月3日（月）から2023年3月31日（金）まで、五色橋ビル（港区海岸3-5-13）にて、展覧会「LIBRARIES | 鎖でつながれた本と本棚と太陽」を開催します。

本展は、会場に溢れる太陽の光に着想を得て企画された期間限定のライブラリーです。

株式会社リソーコが主催、建築家・松井亮が企画・会場構成・家具のデザインを、選書は幅允孝（BACH）、アートディレクションは木住野彰吾（6D）が担当しました。

会場となる五色橋ビルは、1986年、倉庫兼研究開発施設として建設されました。

現在は、その役割を終えて異なる用途に転用されています。周辺地区は、集合住宅やオフィス、物流施設が混在するハイブリッドな街へと変貌を遂げました。本展は、この地区に残る五色橋ビルのような古い建物が、この街に根付きながら変化を続ける建物を目指していく宣言でもあり、新たなリノベーションを探る試みでもあります。

## 展覧会概要について

タイトル	「LIBRARIES   鎖でつながれた本と本棚と太陽」
会期	2022年10月3日(月) - 2023年3月31日(金)
会場	東京都港区海岸3-5-13 五色橋ビル 8階
時間/休館日	10:00-日没閉館 / 休館日 土日・祝日・年末年始 (閉館時間はWEB サイトでご確認下さい)
入場料	無料 (事前予約制。ホームページからご予約ください)
ホームページ	<a href="https://www.libraries.tokyo/">https://www.libraries.tokyo/</a>

主催	リソーコ (Re-SOHKO inc.)
企画	松井亮 (松井亮建築都市設計事務所)
会場構成	松井亮建築都市設計事務所
選書	幅允孝 (BACH)
アートディレクション	木住野彰吾 (6D)
映像	須藤和也 (discovery go)
特別協賛	東京倉庫運輸
協力	乃村工藝社、相合家具製作所、川島織物セルコン

### 会場アクセス

ゆりかもめ 芝浦ふ頭駅 徒歩13分 / 都バス 芝浦四丁目停留所 徒歩8分 / ちいバス 港南三丁目停留所 徒歩4分

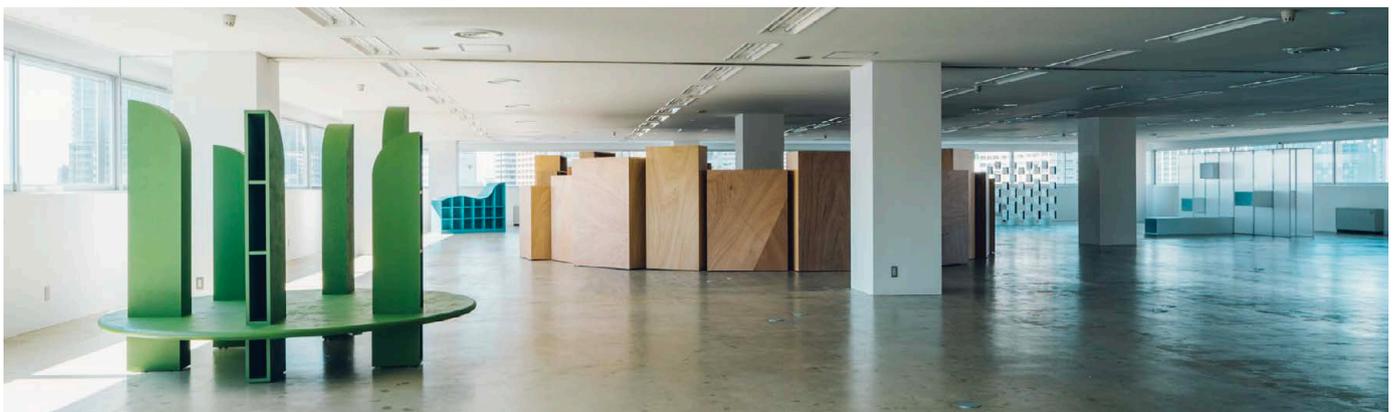
## 展覧会の企画について 建築家 松井亮

かつて本は鎖で本棚とつながっていました。本は本棚の近くでしか読むことができないため、本棚は窓からの光がとどく場所にあり、本のある場所が本を読む場所だったのです。図書館の起源は12世紀頃の修道院にあり、本の貯蔵数が増えるにつれて、自然光が採り込まれる礼拝堂や講堂を改修して図書室が作られました。15-16世紀頃には、都市に公共図書館が建設されます。それでも、本と本棚と太陽の関係は変わらず、ランプを置かない図書館は太陽が沈む前に閉館をしていました。18世紀頃、活版印刷と白熱電球が広く普及し、本と本棚と太陽の関係は大きく変革していきます。

「LIBRARIES | 鎖でつながれた本と本棚と太陽」は、期間限定のライブラリーです。建物を使い続ける手掛かりを探るための展覧会として企画しました。約35年前に倉庫兼研究開発施設として建設された五色橋ビルは、運河と海岸通りに挟まれた立地にあり、水平連続窓からは物流拠点らしい風景が望めます。朝陽から夕暮れまで豊かな自然光が差し込む環境から着想を得て、本と本棚と太陽の関係を根源とした図書館に思いを馳せ、太陽と呼応する個性的な10種類の本棚を点在させています。本棚が居場所となり、本棚と紐づく本に遭遇する、場所を知覚する行為として、サイトスペシフィックな展覧会を開催します。

本展は、来館者の新しい体験として、記憶に残る図書館になることを期待しています。

そして、都市計画学的な視点ではなく、場所固有の本質を紡ぎながら、建物と都市の関係を読み解く手掛かりとなり、建物の価値を高めるリノベーションの下地となることを願っています。



会場南西全景。左からGreen、Chaise Longue、Bookhengeが見える。

## 松井亮が手掛けた10種類の本棚について

鎖でつながれた本と本棚と太陽の関係は、自由で独創的な関係として継承されています。会場に点在する本棚は、新しい思考と出会う装置です。順路はありません。気の向くままに歩き回り、本棚に込められたテーマに紐づく本と遭遇してください。窓から注ぐ太陽の光を感じ、窓から見える風景を見ながら、その場所に漂う思考と向き合うことができます。



### Floating

浮遊する本。1冊のための本棚が連なり、木漏れ日を作り出す。詩が言葉から作るものとするなら、社会は思考から作られるものだろう。絶え間なく漂う思考を切り取り、社会の断面を可視化させている。



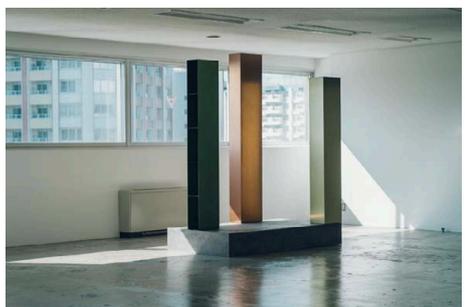
### Perch

本を読むための止まり木。大きな角筒を井桁型に組み上げた。左官で仕上げた凹凸のある表層は、太陽の光によって表情が変わる。光と影が織り成す本棚は、本を楽しむ遊具のようでもある。



### Chaise Longue

心地よい曲線。身体と本棚が重なり、本と向き合う場所となる。本棚に身体を委ねる曲線を加え、眺めの良い居場所を作り出す。本を読み、窓から見える風景を楽しみ、身体を休める。



### Skyscraper

カラフルなモノリス。金属製の本棚は、窓から見える建物から採取した色を塗布した。本棚が夕陽に照らされると、カラフルな反射光が室内の壁や床に映し出される。本を読み終えると屋外と室内の風景が重なり、時間と場所の関係が深まる。



### Wall

都市の中にある壁。3枚の壁は太陽の光を切り取る。壁は孤独が隣り合うために存在し、本を読むための場所を作り出す。壁の隙間から差し込む太陽の光は、孤独を味わうために存在している。



### Green

6つの大陸に息づく植物。地球と植物の関係を表現している。本棚と円盤は互いを支え合い、本を読むための木陰を作り出している。



### Halfpipe

ストリートから生まれた造形。身体を躍動させる造形と本棚を組み合わせた。都市のエッジから生まれたカルチャーは、都市のパブリックと寄り添う。人が集まる居場所、文化が混交する居場所となる。



### Valley

抽象と具象を考えるフォルム。渓谷は太陽の光を和らげ、生態系をつくる。形状が作り上げる環境こそが、その場所の本質となっていく。本を置くと本棚となり、人が座ると椅子になる。



### Translucent

向こう側、を感じる場所。光が透け、影が移ろう。半透明な素材で仕切られた壁に、筒状の本棚が貫通させている。本を読む行為が映し出される様相は、交じり合う文化や自然を表現している。



### Slant

横たわる円柱に寄り掛かる立方体。均衡する相互関係が居場所を作る。円柱は傾いた立方体を支え、立方体は円柱の回転を止めている。円柱は人が座ることができ、立方体は本が倒れない傾きを保つ。

## 協カクリエイターからのコメント



一文字ずつ違う書体を選んで組まれたVI



Perch のために集められた書籍

### 選書について BACH /ブックディレクター 幅允孝

このプロジェクトでは、収蔵冊数を増やすための能率よい本棚は準備されていませんでした。代わりに、ひとつひとつが独特のコンセプトと形、質感を持つ、オブジェのような、彫刻のような、建築物のようなシェルフが並びます。

本棚を建築として捉えるなら、本はその建築物のなかに居る人なのではないかと考えました。もともと私は、よく推敲され必死に搾り出された言霊が定着する紙の本は、書き手の人間性が色濃く染み出すものだと思っていました。

松井亮氏からこのプロジェクトの話を知ったとき、個々の独特な本棚の内側で、どんな人たちがどう心地よく過ごせるだろうかと考え、選書を進めていきました。

「Slant」という棚は、世界のバランスや傾きを考えるための本を。「Skyscraper」の棚は、東京という都市と湾岸の地場を伝える本を。「Translucent」の棚は、曖昧な境界とあわいについて感じる本を。

という具合に、本棚のコンセプトとその中に居る本（＝人たちが）が呼応して、このLIBRARIESは構成されています。

本も人と同じ多種多様で、堅物も居れば、愉快的輩も居るし、気取っている奴もいれば、のんびりしている人もいます。この会場に訪れたとき、普段だったら関わらないような人との偶然の出会いが生まれることを願っています。

そのために、少しだけ携帯電話を鞆にしまって、LIBRARIESの世界に没入してください。

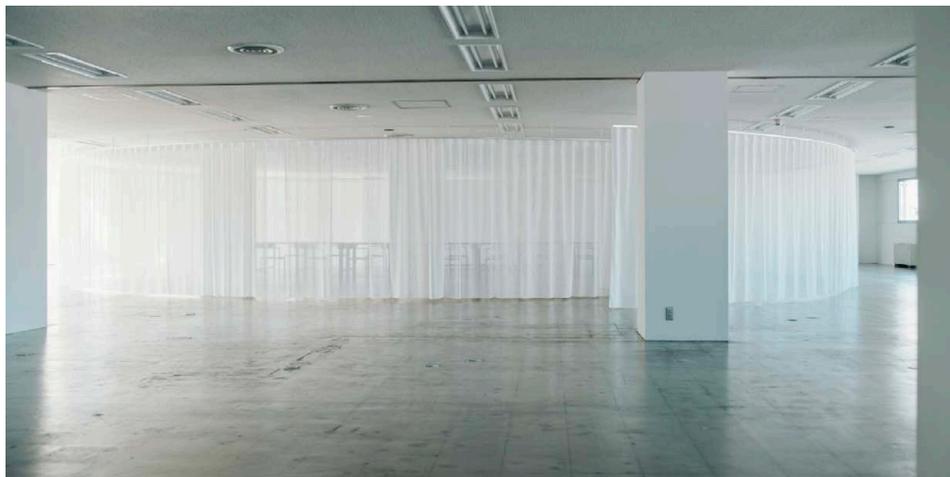
### VIについて 6D /アートディレクター、グラフィックデザイナー 木住野彰悟

30年くらい前は現在のようにMacでの作業ではなく、書体見本帳から1つ1つ書体を選んで必要な文字を切り出してロゴの制作や文字を組むなど、実際に手を動かしてデザインしていました。「鎖でつながれた本と本棚と太陽」という今回の空間のコンセプトに合わせて、VIにも以前の手法を取り入れています。また、一文字ずつ違う書体を選ぶことで、様々な形や素材違いの本棚がある会場全体の雰囲気表現しています。



### Bookhenge

不揃いな本棚が連なった楕円形状の閉架書庫。所蔵数が増えれば領域を拡張させ、楕円形状が変化します。書庫を可視化させ、空間と呼応する関係を作っています。この場所が倉庫として発展した歴史と共鳴するインスタレーションとしての表現でもあります。



### Libraries Hall

透過性の異なる40種類のレースを縫い合わせた楕円状のホール。移り変わる太陽の光によって様相が変化します。展覧会と関連するイベントや都市計画のセミナー等、多目的な用途で使われます。

## 本展関係者プロフィール

### 企画・会場構成

松井亮（まつい・りょう） | <https://www.matsui-architects.com>

1977年 滋賀県生まれ。2004年 東京藝術大学大学院修了、同年 松井亮建築都市設計事務所設立。

主な作品に、「Overture」、「Rebirth House」、「Hitoshinaya」、「自由学園みらいかん」、「さんぼう西村屋本店」、「南三陸の家」等がある。主な受賞歴は、Contractworld Award 2010 / 最優秀賞（独）、AR House Awards 2015/ Highly Commended・次点（英）、AIT AWARD 2020（独）、Restaurant and bar design awards 2020（英）、JCD デザインアワード / 金賞・銀賞・審査員賞（日）、グッドデザイン賞 2021/ ベスト100（日）、他多数。

### 選書

幅允孝（はば・よしたか） | <http://www.bach-inc.com>

有限会社BACH（バッハ）代表。ブックディレクター。近年は本をリソースにした企画・編集の仕事も多く手掛ける。早稲田大学文化構想学部非常勤講師。神奈川県教育委員会顧問。

### アートディレクション

木住野彰悟（きしの・しょうご） | <https://www.6d-k.com>

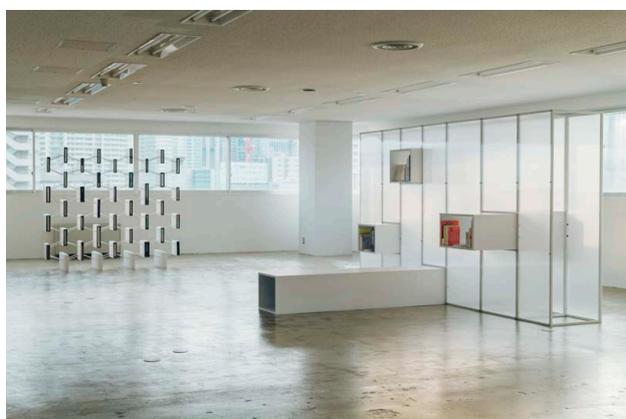
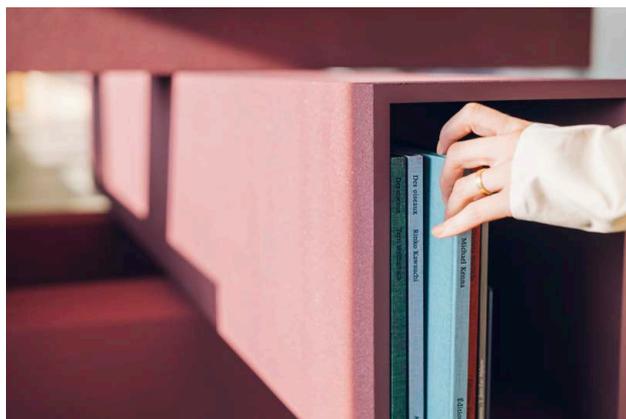
1975年東京生まれ。廣村デザイン事務所勤務後、2007年6D 設立。主な受賞に、カンヌライオン、D&AD、ONE SHOW、アジアデザイン賞、日本サインデザイン賞、日本パッケージデザイン賞、JAGDA 新人賞、東京ADC 賞ほか多数。

### 主催

株式会社リソーコ | <http://re-sohko.tokyo>

1920（大正9）年創業の老舗倉庫会社・東京倉庫運輸が、物流不動産情報サイトを運営するイーソーコらと2006年（平成18）に設立。ビンテージ倉庫をクリエイティブやスタジオに転用する「倉庫リノベーション」事業を推奨し、数多くのリノベーション事例の企画・コーディネートを手掛ける。

## 会場風景より



プレスお問合せ窓口：HOW INC.  
MAIL：pressrelease@how-pr.co.jp，TEL：03-5414-6405

お客さまお問合せ窓口：株式会社リソーコ 担当：伊沢  
MAIL：info@re-sohko.co.jp，TEL：03-3453-0919